

岡森連時報

発行
岡山県森林組合連合会
岡山市北区橘津491-1
電話 086(236)6530
FAX 086(236)6531
ホームページ
<http://www.okmorien.or.jp>



▶瀬戸内海からの日の出
(写真元) 晴れの国写真館



岡山県森林組合連合会
代表理事会長
小野 泰弘

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

平素から森林組合系統の業務推進に格別のご支援・ご協力をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年も新型コロナウイルス感染症が猛威を振るった一年でありましたが、感染対策と社会経済活動の両立に向けた歩みが進められるなど、わずかながら明るい兆しを感じているところでもあります。

また、昨年9月に発生した台風14号は本県でも被害が発生するなど、全国的に多くの自然災害に見舞われた一年でもあり、土砂災害の防止、地球気候シス

テムの安定化など森林の有する多面的な機能を継続的に發揮するため、森林・林業の果たす役割はより一層、重要なものとなっております。

そのような中、森林組合系統では、一昨年の全国森林組合大会において新たな系統運動「Forestビジョン2030」が決議され、本県の各森林組合においても、ビジョンを策定し、事業活動を通じて、森林の持つ公益的機能の維持増進を図りつつ、効率化による経営の安定化、事業拡大による資源の循環利用を進め、脱炭素社会の実現への貢献を目指すこととしたところであります。

当会においても、昨年3月策定のビジョンの中で、森林資源の利用を促進し、「伐って・使って・植えて・育てる」林業のサイクルを安定的に循環させるため、再造林とその後の下刈費用を支援する「皆伐・再造林促進支援事業」のほか、造林作業等の労働強度低減を目的とした大型ドローンによる「苗木運搬サービス」、搬出経費の削減を図る「中間土場におけるサテライト共販」、森林の適正管理の重要

性と県産材の利用促進に努めるため、県内の認証森林から生産された木材を使用した「県産材認証合板の販売」など、スマート林業の推進や新たな木材供給のあり方についての検討を、今後の取り組みべき内容として掲げたとところであります。

また、専門的な知識・技術を備えた人材の育成・確保対策として「緑の雇用事業」のほか、事務局を務めている（公財）岡山県林業振興基金や林業・木材製造業労働災害防止協会岡山県支部とも連携し、フォレストスターの職場内研修、技術習得支援、安全装備等の導入補助を行う「担い手対策事業」、労働災害防止に向けた「教育事業」などについても引き続き強力に推進してまいります。

これらの取り組みを着実に遂行していくことで、豊かで健全な森林を次の世代に引き継いで行くとともに、山元への一層の利益還元を行ってまいりますので、本年も引き続き、岡山県森林組合連合会への皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が、皆様にとりまして希望に満ちた明るい年となりますよう、心からお祈り申し上げます、新年のご挨拶いたします。

謹で初春のお慶びを申し上げます
元旦

岡山県森林組合連合会

代表理事会長	小野 泰弘
副会長理事	竹本 俊郎
代表理事専務	池田 稔
理事	井上 稔朗
理事	小椋 美博
代表監事	完田 二郎
監事	久内 昌平
監事	小橋 仙敬
総務部長	井上 純一
(兼総務指導課長)	
事業部次長	池上 祐司
(兼木材センター所長)	
事業部次長	近藤 晃
(兼勝山支所長)	
研修課長	阪本 明日香
業務課長	小松 庸介
木材販売課長	大山 淳
(兼津山支所長)	
新見支所長	奥山 総一郎

役職員一同





岡山県農林水産部長
万代 洋士

新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、お健やかに新年を迎えることとお慶び申し上げます。また、平素から森林・林業行政をはじめ県行政の全般にわたり、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が、いまだ感染再拡大を繰り返しています。日常は少しずつ、コロナ禍前と同様の風景を取り戻しつつあり、本年は更に状況が改善されることを願っております。

さて、昨年公表された令和3年木材統計において、ヒノキ素材（丸太）生産量が3年ぶりに全国一位になるなど、本県の人工林資源は本格的な利用期を迎えており、豊富な森林資源の循環利用に向け、新たな木材需要の創出や安定的・効率的な

県産材の供給体制の構築等による林業の成長産業化の実現と森林資源の適切な管理を両立させることが課題となっています。

国においては、一昨年新たな「森林・林業基本計画」が閣議決定され、森林の適正な管理を図りながら、林業・木材産業の持続性を高めつつ、成長発展させることを通じて、2050年カーボンニュートラルも見据えた豊かな経済社会を実現する「グリーン成長」を指していくこととされています。

県では、森林・林業を取り巻く社会や情勢の変化に対応しつつ、多様で豊かな森林を次世代へ引き継いでいくため、「21おかやま森林・林業ビジョン」に基づき、輸入木材の供給リスクなども踏まえた県産材の安定供給体制の整備や、さらなる利用促進に務めるとともに、森林経営管理制度の適切な運用への支援、担い手の確保・育成、少花粉スギ・ヒノキへの植替えの促進などに取り組んでいるところです。

岡山県森林組合連合会並びに各森林組合におかれましては、皆伐・再造林促進支援事業による再造林への支援や、苗木運搬用ドローンを活用した省力化林業の推進などにも取り組んでいただいております。引き続き、地域の森林管理の中心的な担い手として、また意欲と能力のある林業経営者として、適切な森林整備と県産材の安定供給にご尽力を賜りますようお願いいたします。

最後にありますが、皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。



全国森林組合連合会
代表理事会長
中崎 和久

年頭に当たり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、弊会の業務運営につきまして特段のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年も集中豪雨等により全国各地で災害が発生しました。被災さ

れた方々に衷心よりお見舞いを申し上げます。また、森林組合系統が一丸となって、復旧・減災の取組に尽力することを改めて決意する次第です。また、新型コロナウイルス感染症については、感染対策から社会経済活動との両立への転換が進められているところですが、昨年末より新たな感染拡大が始まっており、ウクライナ情勢を始めとした世界情勢の混乱と合わせて、経済への影響が懸念されるところです。

その一方で、SDGsやカーボンニュートラル社会の理念の広がりを受け、森林の多面的機能の発揮への国民の期待が高まっております。森林組合系統に対しては、地域の森林管理の担い手として、森林資源の適正な管理や循環利用に向けた中心的な役割を發揮することが求められています。

そのような中、森林組合系統では、一昨年の秋に決議した「Forestビジョン2030」に基づき、系統各組織において、10年後の夢・目指す姿を策定し、地域森林の適切な利用・保全と林業経営のさらなる発展に向けた取

組を本格展開しているところ。

関連して、弊会が事務局を務める「林業技能向上センター」は昨年9月に任意団体から一般社団法人となり、林業に関する技能検定制度の構築に向けた取組を加速しております。技能検定制度の創設により、現場技能者の所得向上や作業環境の改善が図られ、ひいては業界全体の課題である労働力不足の解消につながるよう取組を進めて参ります。

また、昨年6月には森林・林業・木材関係6団体とともに、国産材の安定供給体制の構築に向けた「共同行動宣言」を行いました。この共同行動宣言では、「時代の要請に応える国産材の安定供給体制の構築に向けて」をテーマに、日本の森林が健全な姿で次世代に受け継がれていくため、持続性の確保された国産材の原木及び製品の生産・流通・利用と国産材シェアの拡大に向けて、生産者と需要者が一体となり実現を目指すこととした画期的なものであり、主旨の実現に向け協力体制の構築に注力して参ります。

す。その他、昨年8月には韓国山林組合中央会と事業協力協定を締結し、林業政策や技術者育成に関する情報共有等、相互発展に向け協力を深めることとしました。早速、韓国の山林組合視察団による日本の森林組合、森林組合連合会への視察が行われ、今後も様々な連携を進めて参ります。

さらに、新たな取組として、カーボンニュートラル社会への貢献を目指し、農林中央金庫とともに、森林組合系統における森林由来クレジットの円滑化に向けてサポート策の検討を進めています。

今後も、弊会では系統関係者及び関連団体とともに、森林資源の循環利用を通じた「グリーン成長」の実現、人材の確保・育成、林業労働安全、国産材利用促進等に向け、役職員一同精進する所存です。今後とも倍旧のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとって幸多き一年となりますよう祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



農林中央金庫

岡山支店長

原田 大輔

謹んで新年のお慶び申し上げます。

皆様におかれましては、当金庫業務につきまして、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、歴史的な円安や新型コロナウイルス感染症の新株流行といった難局との闘いが続く一年となりました。昨年10月に全国旅行支援が開始され、経済活動は徐々に回復しておりますが、依然として農林漁業者にとっては厳しい局面が続いており、新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息をお祈り申し上げます。

森林・林業の動向に目を向けますと、生産資材の価格高騰やウッドショックの反動による木材価格急落に見舞われました。また、担い手の確保といった持続可能な林業経営に向けた課題を抱えており、

「Forestグループをはじめとして、行政や民間の事業体等、様々な機関が連携を強化して対応することが重要であると認識しております。」

一方で、岡山県においては、3年ぶりにヒノキの生産量が一位となりました。香りの良さから、建築用材だけでなく家具用材としても人気が高まっている今、日本有数の産地としての注目がより一層高まることを期待しております。

また、気候変動課題への対応が国内外で進展する中、森林のCO₂吸収効果に大きな期待が寄せられております。当金庫でも2030年中長期目標として「会員と一体となった森林由来のCO₂吸収」を掲げており、林業ならびに森林組合系統の皆様と連携し、多様な支援活動・適切な金融機能の發揮に取り組んで参ります。具体的には、農中森力基金による荒廃した民有林の再生支援、林業作業時における安全装備品等の購入費用助成ならびに森林由来のクレジットの取組支援等により、林業・森林組合系統の発展のために微力ながら尽力していきます。

く所存であります。

本年も皆様のお役に立てるよう、これまで以上に一層積極的に取組を行う所存でございますので、引き続きご指導・鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びになります。皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

陳情について

令和5年度岡山県予算編成に関する各種団体個別懇談会に出席し、自民党県議団へ陳情書を次のとおり提出しました。

本県の森林資源は、戦後造成された人工林を中心に本格的な利用期を迎えています。昨年度は、「ウッドショック」の影響で一時的に木材価格は好転しましたが、山元の立木価格はほとんど変わらず長期にわたる低迷が続いており、森林所有者の経営意欲は著しく減退し、森林の多面的な機能の發揮への影響も懸念されています。

令和元年度からは、森林環境譲与税制度が創設されるとともに、市町村

が主体となつて森林経営管理を推進する「新たな森林管理システム」の運用が始まり、森林林業施策は大きな転換期を迎えています。

こうした中、森林組合系統は「一丸となり」、「林業の成長産業化」を現実のものとするために、森林の集約化、間伐、皆伐・再造林などの森林整備や担い手の確保・育成、県産材の安定供給と利用促進に努めているところであります。

つきましては、次の事項の実現に向け、特段の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

1 脱炭素社会実現に向けた新たな仕組みづくり

「脱炭素社会」の実現に向けた国の2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す宣言やESG、「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」(改正木材利用促進法)を踏まえ、二酸化炭素の吸収等に果たす森林や木材の役割は非常に大きなものがあります。

こうしたことから、県が現在進めている「企業との協働の森づくり」の

制度等のCO₂吸収量認証制度を見直し、森林由来のJ-クレジットの導入が県内の森林組合が管理する森林経営計画策定森林において進むよう、県、企業団体、森林関係団体が参画した新たな仕組みづくりの構築を要望いたします。

2 森林環境譲与税の使途と森林経営管理制度の推進に向けた市町村への指導について

森林環境譲与税を効果的に活用し、森林経営管理制度を円滑に運用するためには、市町村、県、地域の森林の現状に精通した森林組合が一体となり、森林所有者への意向調査を加速していく必要があります。

このため、専門的な人材が少ない市町村に対して県の林業専門職員が出向するなど、県のリーダーシップのもと、地域ごとの実施体制づくりと地域の実情に即した森林環境譲与税の適正な使途及び支援策が一層進むよう要望いたします。

3 適切な森林整備の推進支援について

森林の有する公益的機能を継続的に發揮し、災害に強い森づくりを進め

ていくためには、間伐や作業路網整備、主伐後に放置されることなく少花粉苗木による再造林、下草刈りと継続的な森林管理が着実に進められることが重要であります。

このためには、国、県の補助制度の拡充(保育・作業道採択基準の緩和・標準単価歩掛アップ)・事務手続きの簡素化について要望いたします。

また、現在、再造林の実施割合が約3割に留まっており、県、市町村、関係団体が一体となった再造林推進体制の構築と現場のニーズに即したコンテナ苗木の生産拡大と適切な需給情報の提供をお願いいたします。

4 生産性の向上と県産材の需要拡大について

県内の森林資源は、年々充実してきており、丸太の生産量は、ヒノキを中心に増加傾向にあるものの、製材品の出荷量は減少傾向にあります。当会においては、新たに、県内の森林認証林から生産された木材から、構造用合板の製造販売を始めたところでもあります。この取組は、「持続可能な森林経営・管理」の実現と県産材の需要拡大に寄与

できるものと考えており、「おかやまの木で家づくり支援事業」や公共建築物において県産材認証合板が幅広く使用される配慮をお願いいたします。

5 おかやま森づくり県民税の継続等について

おかやま森づくり県民税の課税期間は、令和5年度をもって、今期5年間の最終年度を迎えます。この財源に基づき実施される森林整備や担い手の確保育成等の事業は、本県の森林を適正に維持管理していくために必要不可欠なものであり、今後につきましても、税制度が継続されるとともに、市町村が実施する森林環境譲与税を活用した事業として引き続き区分を図りながら進めていただきますようお願いいたします。

新見地区木材まつり

令和4年10月21日、岡山県森林組合連合会新見木材共販所にて、新見地区木材組合（戸川睦徳組合長）主催による『第46回新見地区木材まつり』が開催されました。地区内外から約4千mの出荷がありました。

また、優良材出品者に県知事賞、近畿中国森林管理局長賞、新見市長賞、県木連会長賞、県森連会長賞などが授与されました。

県知事賞には、(株)戸川木材

ケヤキ（8.4m×80cm）が選ばれました。



▶当日の様子
（新見木材共販所）

けで、新見地区は年間15万m³の素材を生産しており今後とも協力をお願いします。」と挨拶されました。

〈受賞者一覧〉

岡山県知事賞	(株)戸川木材
近畿中国森林管理局長賞	佐藤久夫
新見市長賞	杉本堅
岡山県木材組合連合会長賞	入澤淳
新見市森林組合長賞	森下孝雄
新見商工会議所会頭賞	(株)山崎木材
備北民報株式会社社長賞	小田祺景
岡山県森林組合連合会長賞	池田信恵
新見地区木材買方組合長賞	(株)金山林業
新見地区木材組合長賞	(株)大輪

緑の雇用集合研修が修了 新たに9名のフォレストワーカー誕生

令和4年12月2日、緑の雇用3年生の集合研修が終わり、新たに9名のフォレストワーカーが誕生しました。

昨年に引き続き少人数ではありますが、講師陣と密に話ができた、重機等に触れる機会を多くもてたりと濃い内容の研修になったと思います。



▲集材・造材の研修

研修生からは、「緑の雇用のカリキュラム及び資格をすべて修了して、これからは研修生ではなく、一人前の林業従事者として会社からの要求も増えていくので対応できるようにしたい。」また「先輩に対して指導していく立場となっていくので、安全意識を高く持ち、林業に従事していこうと思う。」などの話があり、今後岡山の林業で活躍していくことを期待します。

次はフォレストリーダー研修で再会出来ることを楽しみにしています。



▲令和4年度フォレストワーカー研修生

フォレストリーダー研修

令和4年12月16日、現場技能者キャリアアップ対策事業フォレストリーダー研修の修了式を執り行いました。

今年度は、新たに15名のフォレストリーダーが誕生しました。フォレストワーカーからのキャリアアップを目的としているため、「安全指導」「コスト管理」「作業道作設」「目標林型」等、現場管理や指導者としてのスキルアップを目指す研修です。技術向上や安全意識はもちろんですが、作業班員や新人等への教育についても学んでいただける

カリキュラム内容となっております。

今年度のフォレストリーダー研修は、林業技術研修棟（勝央町）を活用し、伐倒練習機などで伐倒の指導方法を学んだり、美咲町有林で実際にデモを行いながら作業道作設の方法を学んだりと貴重な研修が出来ました。最終日に今回の研修を受講して感じたことや決意表明をしていただきました。「普段は指導する立場なので、伐倒等指導の方法を学べたのはとても良かったです。」、「普段ほかの事業体の方とお話をする機会がないのでとても参考になった。」などの意見がありました。

修了者には、自分自身の知識・技術向上はもちろんですが、作業班員、新人等への教育についても期待しております。

今後も新たな林業従事者の育成及び指導を実施し、岡山の林業を盛り上げていくとともに、労働災害ゼロを目指していきたいと思ひます。



▲令和4年度フォレストリーダー研修生

第34回 岡山県民有林優良材 展示コンクールを開催

総取扱数量約6千3百³m



令和4年11月9日、岡山県森林組合連合会津山木材共販所にて、『第34回岡山県民有林優良材展示コンクール』を開催しました。森林組合をはじめ多くの方々のご協力のもと、約6千3百³mの出荷をいただき、多くの優良材を揃えることができました。

コンクールの出品は、県北を中心にスギ46点、ヒノキ66点の計112点ありました。

農林水産大臣賞には、真庭市のヒノキ(0.6m×32、36)が選ばれました。

当日、11時に行われた記念式典では、小野会長から、

「今年は、昨年のウッドショックの反動から急激な価格の低下があり、底が見えない市況の落ち込みに危機感すら覚えました。が、このところ、少しずつ市況が回復しつつあります。

当会としては、これからも引き続き、原木の有利販売に全力で取り込むとともに、中間土場の運営や情報提供、造材の支援などを積極的に行ってまいります。

そして、この度、受賞された皆様、誠にありがとうございます。審査の結果をお聞きしたところ、受賞された出品材は、いずれも丁寧な手入れがされていたと聞いております。長年にわたり、真摯に手入れを続けられたことに、心より敬意を表する次第であります。」と挨拶がありました。



▲小野会長挨拶



▲せりの様子(津山木材共販所)

〈受賞者一覧〉

農林水産大臣賞	清水英男	真庭市
林野庁長官賞	武本美紀	鏡野町
近畿中国森林管理局賞	石原寿典	鏡野町
岡山県知事賞	大釜環	美咲町
農林中央金庫岡山支店長賞	近藤敏邦	真庭市
岡山県木材組合連合会長賞	小椋健治	津山市
全国森林組合連合会長賞	久本一臣	奈義町
岡山県森林組合連合会長賞	檜村恭則	岡山市
同	黒田光記	津山市
同	安田尚之	新見市
同	藤原雅博	美作市
同	戸田昭夫	真庭市

全国代表者表彰について

令和4年10月25日に銀座プロッサム中央会館(東京都)にて、全国森林組合代表者大会が開催され表彰行事が行われました。当県の受賞者は左記のとおりです。

○功労者表彰(永年勤続)

単位組合職員

下山正晃(津山市森林組合)

西森隼人(美作東備森林組合)

現場技能者

定雪健二(作州かがみの森林組合)

瀧本剛(真庭森林組合)

宮本卓弥(真庭森林組合)

坂岡優(美作東備森林組合)

○感謝表彰

系統組織の発展への功績

福田勉(奈義町森林組合)

退職者の永年に亘る

系統組織発展への功績

小椋一(真庭森林組合)

この度は、栄えある受賞、誠にありがとうございます。今後ますますのご活躍をお祈りいたします。



▲授賞式(銀座プロッサム中央会館)

おかやまるしえ

令和4年10月15日、岡山駅東口前広場にてJAグループ岡山などが主催する地元産農林水産物のPRイベント「岡山農畜水産物マルシェ」が催され、県内JAや各種協同組合、農業高校など、当会を含め、計16団体がブースを出店し、岡山県産の米や野菜、果物、肉、林産物、水産物、加工品等の販売が行われました。



▲オープニングセレモニーの様子

当会からは、岡山県産のヒノキを使った木製モستانドや木製バンドなど、木のぬくもり、木の香りを楽しめる商品のほか、シイタケやキクラゲなどの山の幸を販売し、多くの方にお越しいただきました。

また、ステージイベントでは、「笑味ちゃん天気予報」とコラ

ボした出展ブース紹介もあり、間伐材を利用したオリジナル商品など、当会のSDG達成に向けた取組について紹介を行いました。

再造林支援基金
賛助金贈呈式・再造林のつどい

当会が運営する皆伐・再造林促進支援基金に、県内の企業から初めて賛助の申し出があったことから、式典と記念植樹を執り行いました。



▲式典の様子

賛助の申し出があったのは、LPガス販売事業等を手掛ける浅野産業(株)、建設・林業機械の販売等を行う富士岡山運搬機(株)、建築用住宅資材販売を行う(株)ウッドワールドのぎさのいずれも県内に本社を置く3社で、各社とも100万円、計300万円の賛助金が寄せられました。

令和4年11月16日に吉備中央町上野の森林伐採跡地で行われた式典と記念植樹には、賛助金を寄せた3社の代表者らと、森林組合の関係者などおよそ40人が参加しました。

式典では、3社の代表から「岡山の森林を守り育てるのに役立ててほしい」との挨拶とともに目録が贈呈され、小野会長からは県産ヒノキを使った木製感謝状が手渡され、「これからも伐って・使って・植えて・育てる取り組みを進めていきたい」と感謝の言葉を述べました。

続いて行われた記念植樹では、林業用大型ドローンによって運搬された少花粉ヒノキのコンテナ苗木100本を参加者全員で植樹しました。

皆伐・再造林促進支援基金は伐期が近づく県内の民有人工林の主伐・再造林が進まない状況に対して、持続的な林業経営と年齢構成の平準化を促進するため平成27年度から運営が開始され、当会では森林組合が皆伐し搬出した原木が共販所で販売された場合、1立方メートル当たり30



▶植樹の様子

0円を同基金に拠出するほか、当会で取り扱う県産材認証合板の売上に対し1枚当たり30円を拠出しています。



▶植樹後の集合写真

今年度からは、岡山の森林・林業への関心を高めてもらうことを目指し、企業等からの賛助金を募っていました。

同基金では、皆伐跡地への再造林・下刈り経費の一部、再造林では最大12万円/ha(ドローン活用の場合は15万円/ha)、下刈りでは7万円/ha・年(最長5年間)を支援しており、令和4年9月末までの助成実績は再造林で計1,414万円(166件、138・94ha)、下刈りで計883万円(180件、延べ176・67ha)となっています。

《 賛助金ありがとうございました 》

ASANO
浅野産業株式会社

富士岡山運搬機株式会社

ウッドワールドのぎさ
WOODY WORLD HIGASHI

〈 再造林支援基金 助成実績表 〉

(R4. 9月末時点)

区 分	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	計
再造林	件 数 (件)	2	10	17	23	28	32	23	31
	面 積 (ha)	1.00	4.02	10.23	25.26	20.93	39.02	20.46	138.94
	補助金 (千円)	100	402	1,023	2,526	2,093	3,902	2,046	14,148
下刈り	件 数 (件)	2	4	15	29	28	43	59	0
	面 積 (ha)	1.00	2.32	7.06	24.71	26.09	59.12	56.37	176.67
	補助金 (千円)	50	116	353	1,235	1,304	2,956	2,818	8,833